

## \* 堂平観測所にあった AFU カメラの探索

堂平観測所は2000年度末に閉鎖されました。これはハワイ観測所の「すばる」の完成の引き換えのようなものでした。中桐は三鷹の30cm望遠鏡を占有していろいろな変光星を観測していた頃、変光星の暗いフェーズは堂平観測所の91cm望遠鏡で観測していました。1ヶ月に3夜の観測時間を2回もらっていました。考えてみると堂平観測所の主力望遠鏡の2割の観測時間をもらっていたことになります。

堂平観測所は、秩父山系の東端にある標高876メートルの堂平山の山頂に1962年に建設されました。これは日本の本格的な天文台建設の萩原構想の一環で、1960年に建設された東京天文台岡山天体物理観測所につづいて、東京の近くの堂平山に建設されました。しかし、堂平観測所の91cm望遠鏡も当初の構想では岡山に建設が予定されており、私が岡山観測所に就職した時には36インチ予定地がありました。

堂平観測所に91cm望遠鏡が置かれたのは、岡山は遠すぎて天文現象の突発現象に対応できないので東京の近くの適地ということと、堂平の冬期の天気は世界でも有数の晴れる場所という理由でした。

1975年には月レーザー測距3.6m望遠鏡が建設されました。この3.6m月レーザー測距望遠鏡の製作者が法月技研(当時は法月鉄工といました)です。堂平観測所には三鷹から移設したアメリカのNASAから提供されたベーカーナンシュミットカメラが人工衛星観測に活躍していましたが、当時のソ連も堂平観測所に人工衛星観測用のAFUカメラを持ち込んでいました。ベーカーナンシュミットカメラは堂平観測所閉鎖時に姫路科学館に譲られ、AFUカメラは法月技研に託されていました。

PMCの博物館構想で往時の観測装置、測定器械類の収集を進めるに当たって、姫路科学館に譲られたベーカーナンカメラは、すでに博物館のような所に展示されており、今となっては天文台に戻りようもないので、法月技研に託されたAFUカメラが法月技研での役目を終えているならば、なんとか天文台にお譲りいただけないかと現在の社長に持ちかけてみた。

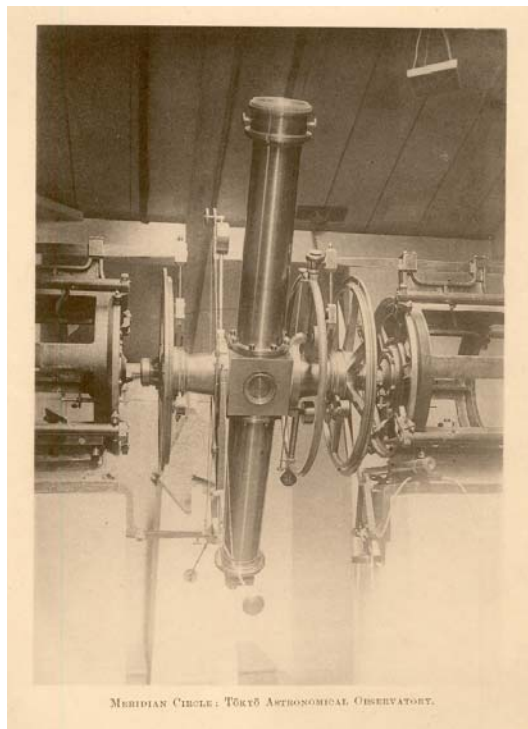
すると、顔見知りの社長から、すぐに意に沿った返事がもらえたのである。具体的な輸送手段の見積もりをとるところまで話が進んだ、社長の話では、なんと4トントラック一杯の量があるというのだが、えっ!と声を出すと2トントラックと言い換えたが、相当な数の木箱に入っているようだ。

## \* メルツ・レプソルド子午環の写真発見

メルツ・レプソルド子午環(口径:14.3cm、焦点距離:149cm)は1879年ドイツ・ハンブルグで製作され、明治政府の海軍観象台が購入し、1880年6月に日本に到着しています。

東京天文台が麻布にあったころの主力観測器械でしたが、1923年の関東大震災で大破してしまいました。このたびこのメルツ・レプソルド子午環の写真を発見したので報告します。

東京天文台年報第2号のH. KIMURAの東京天文台の経度決定の論文につけられた写真です。



同時に、東京天文台年報1号の寺尾 寿の論文に麻布時代のレプソルド子午儀の写真を発見しました。この写真には仰向けに寝転がって観測するリクライニング台、子午儀の東西を反転する台、視野を照らすランタンも写っています。

